

## 令和2年度 卒業式 校長式辞（令和3年3月2日）

春の訪れが感じられる今日の佳き日に、保護者の皆様のご臨席を賜り、岡山県立岡山朝日高等学校第72回卒業式が挙行出来ますことは、大変感慨深く、また、大きな喜びであります。

また、新型コロナウイルス感染症対策の為に参加いただけなかった、来賓の皆様の祝福の気持ちや、本校2年生、1年生の卒業生に対する感謝の気持ち、管弦楽部員の心を込めたハーモニーが、この空間に満ち満ちていることを感じます。

ただ今、350名に卒業証書を授与いたしました。栄えある岡山朝日高校の卒業生となった皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、本校に入学して以来、今日に至るまでの3年間の様々な思いが胸をよぎり、感無量のことと拝察いたします。成長されたお子様の今日の門出を、心よりお慶び申し上げます。

卒業式に臨み、卒業生の皆さんの思いはどのようなものでしょうか。3年前の入学式以来、高い志を持ちつつ、学習や進路決定においては、努力と挫折と再生を繰り返してきました。部活動や朝日祭においては、友と葛藤しつつも心通わせて取り組むなど、時間がいくらあっても足りない密度の濃い日々を過ごしてきました。

それは、厳しい経験であるとともに、その厳しさを克服することも含めて、「記憶に残る」日々であったと思います。

特に、2年生の終わりからは、新型コロナウイルス感染症対策のために、当たり前と考えていた日常生活や教育活動が制限されることとなりました。また、大学入学共通テストについても制度的に迷走することとなりました。皆さんも、本当に、不安やストレスを感じ、今も感じていることと思います。

このような状況で、一人ひとりが自分らしく、また、時に新しい自分をつくって努力してこられた皆さんに対し、ご卒業を心から祝福いたします。

皆さんの今日あるのは、皆さんの努力は勿論、これまで支えてくださった保護者の方々の深い愛情、同窓生や、気づきにくいかもしれませんが地域社会の方々の、岡山朝日高校の生徒に対する温かいご理解とご支援の賜でもあります。このことを、決して忘れないでください。

本校の教育は、長い伝統の中で培われてきた「自主自律」を重んじ、自由を尊重する態度の涵養を基本としています。これは本校の前身である旧制岡山中学・岡山一中に学んだ生徒たちの所謂「一中精神」が源流です。そして、本校の最も強みとするところが、「共に高め合う友人」の存在です。皆さんは、岡山県内最大規模である1学年9学級、1000人を超える多才・異才の多様性に富む朝日高生の中で高校生活を送ってきました。

本校での三年間の生活が、一人ひとりのこれからの人生にとって大きな力となる

ことは間違いないと考えます。皆さんには、人生の時々、その原点となる本校での生活を振り返り、誇りをもって歩んでいただきたいと思います。

今日の門出にあたり、二つのことを期待しています。

まず、「自分自身を大切にすること」です。皆さん一人ひとりが、保護者の皆様が、教職員が、今ここに共にいること自体が奇跡であり、かけがえのない大切なことです。

自分の可能性を強く、強く認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と「支え合い」、「助け合う」存在であってほしいと思います。

本校校門付近に楠の大木があります。楠は、成長は遅くても大木になります。この楠のように、ゆっくりでよいのです。皆さん一人ひとりが一人ひとりの在り様で大きく成長していくことを期待します。

二つ目は、社会や時代にただ「対応」するのではなく、よりよい社会をつくる主権者としての意識を持ち、行動することです。時代が今後どのようなものになっていくのかは予測困難ですが、少なくともはっきりしていることは、様々な分野で予測できない非連続的な変化が起こっていくことです。訪れる変化と新たな社会に目を向け、公的な問題について自らのこととして受け止め、批判的かつ建設的な対話と、自分にできることを考え実行することです。皆さんには日本だけでなく世界のリーダーとしての役割も期待されています。

どうか健康には十分留意し、本校で学んだこととともに、家族や友人、後輩の皆さんや教職員との絆を胸に、人生を力強く歩んでいってください。

終わりにになりましたが、本校教育に対しこれまでご支援・ご協力くださいました多くの方々に心からお礼を申し上げ、式辞といたします。

(県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣)